

## 御挨拶

敬愛する皆様へ、NPO法人「東北ヘルプ」代表としての最後のご挨拶を申し上げます。

私は、本年6月の定期総会をもって代表を退任し、新たに川上直哉事務局長が代表に就任することになりました。これまで長年にわたり「東北ヘルプ」の働きを覚えて、お支えくださった多くの皆様には、心からの感謝を申し上げます。皆様の深い思いとお祈り、そして尊い捧げ物なくして、私共の働きは成り立ちませんでした。

震災当時、仙台にあったカトリックを含む緩やかな超教派の連合体「仙台キリスト教連合」の世話人代表をしていた関係で、諸教会・団体のネットワークを通して被災地を助ける窓口として立ち上げられた「東北ヘルプ」の代表となりました。

初めは短期間で終わるはずだった働きが、こんなにも長く続くことを誰も予想できませんでした。そのため、震災から3年後に教会の働きの関係で関西に移動してから、なお継続の必要があるならば「代表」を替わってほしいと理事会に願いました。被災地に居ない人間が「代表」を務めることの限界を感じたからです。あまりにも遅い交代となりましたが、この度ようやく念願がかない、ホッとしています。

もとより、活動そのものの必要が無くなったわけでは決してありません。むしろ、毎年のように被災地を襲う大地震や台風などの自然災害、そしていつ終わるとも知れぬ原発災害との戦いを生き続ける被災者の方々との歩みは、まだまだ続いてまいります。私も微力ながら、理事の一人として、これからもずっと関わり続けてまいります。

昔、苦手な英文法で過去形と現在完了形の違い、まして現在“完了”のはずなのに“継続”の意味があるのはなぜなのか、全く理解不能でした。しかし、今日も被災地で直面する日常とは、まさに“現在も継続し続けている過去”なのだと思います。そんな被災地福島の日常を膨大な資料とインタビューに基づいて描いたコミック『星の輝き、月の影』は、私共の支援者でもあられる“じんのあい”さんの作品です（本号の書評を参照してください）。

そのような日常を、私たちは共に歩んで行きたいと願っています。そして、同じく被災地に心を寄せてくださっている皆様の思いを届ける“管”として、今後とも「東北ヘルプ」をお用いいただければ真に幸いです。

心からの感謝をもって。

2022年受難節



仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク(東北ヘルプ)  
代表

吉田 隆